

TYPE OF
INDUSTRY

熱田起業

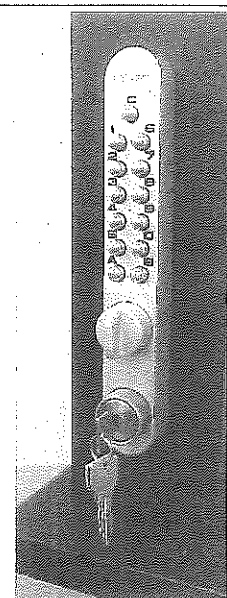
名古屋港に注ぐ中川運河沿いに、三菱重工業の古くからの協力会社がある。熱田起業（名古屋市中川区、矢野照明社長、052・355・8038）だ。1954年に創業し、戦後初の国産旅客機「YS11」の部品も製造していた。

三菱重工の名古屋航空宇宙システム製作所（名古屋市港区）との取引が長い。航空機、ロケットの中・小型部品を手がけ、機体部品を中心におよそ2000種類を製造する。ただ機体部品の加工は将来

上昇気流に乗れ

航空機産業を支える企業と技術

23



を押して開ける仕組み。カギを持ち歩く必要がない上、電気も使わないため、最近ではピルの裏口や駅の改札内

半導体製造装置向け 真空ゲージ事業参入

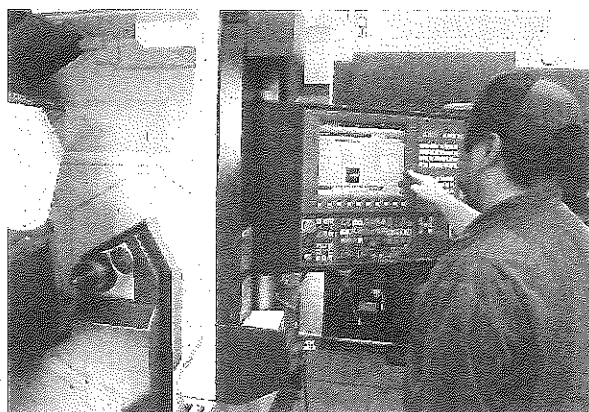
住友重機械工業は、一空ゲージを開発する米子会社化した。半導体製造装置向け真空ゲージ事業参入

エンジン部品参入目指す

している。

エンジン部品は高い耐久性が求められる。インコネルなどの金属を用いるが、材質上加工が難しい。付加価値が高い仕事だが、参入が難しい。それでも矢野社長は「（エンジン部品は）日本の航空機産業で最も競争力がある分野で、国内に仕事が残る」と参入に強い思いを抱く。

受注を目指す相手は三菱重工の航空機・ロケットエンジンを手がける名古屋誘導推進システム製作所（愛知県小牧市）。2018年のうち難易度の高い前半と、目標時期も定めていく。



三菱重工の航空機エンジン部門出身のコンサルタントに指導を仰

加工したのはエンジン燃焼器の一部。三菱重工航空エンジン

ベテランの職（愛知県小牧市）などが審査し外観上、問題は表面の粗さがわかる。次元測定機を16年末に導入した。ただ完璧ではなかつた。内部に若干の歪を確保し、参入を実現した。改善に向け、高性能な工作機械を導入した。16年に実施したエンジン部品の試作加工コンテストに参加。2部門に参入。2部門

【企業メモ】11年に本社を現在の場所に移転し、2カ所の工場を集約した。社内の情報共有が進み、効率的な生産体制を実現した。工場では勤続50年以上の社員が6人いるなど、ベテランが活躍する。工作機械の操作のプログラミングに、職人技が生きる。矢野社長は「培ったノウハウを生かし、頭の中で加工の順番を決めている」と説明する。

機械・ロボット・航空機